

山形県スポーツコミッション研修会

# 北海道のスポーツ合宿における 自治体の取組みについて



石澤 伸弘

(北海道教育大学 札幌校)

[ishizawa.nobuhiro@s.hokkyodai.ac.jp](mailto:ishizawa.nobuhiro@s.hokkyodai.ac.jp)

# 本日の内容

## 1. 道内のスポーツ合宿の実施状況

→ 道庁環境生活部 スポーツ局 スポーツ振興課のデータより

## 2. スポーツ合宿実施自治体の内情

→ 道内市町村調査のデータより

## 3. スポーツ合宿に参加する側の選定要因

→ 道内合宿実施団体調査のデータより

# 第一部

## 道内のスポーツ合宿の実施状況

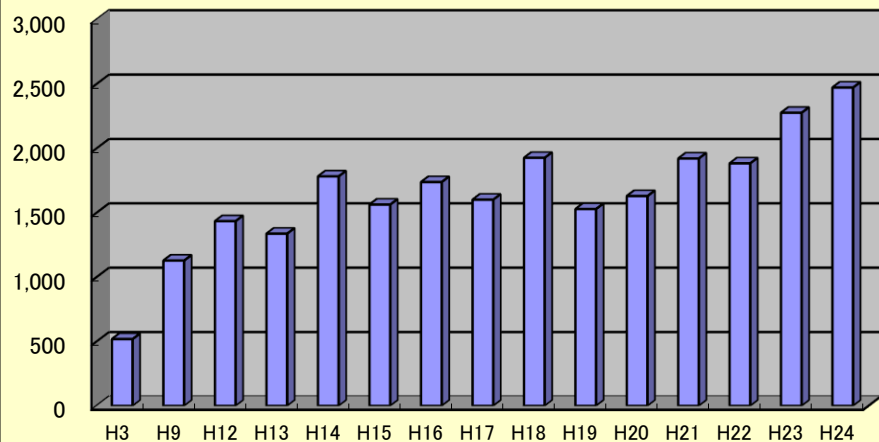


# 問題の背景

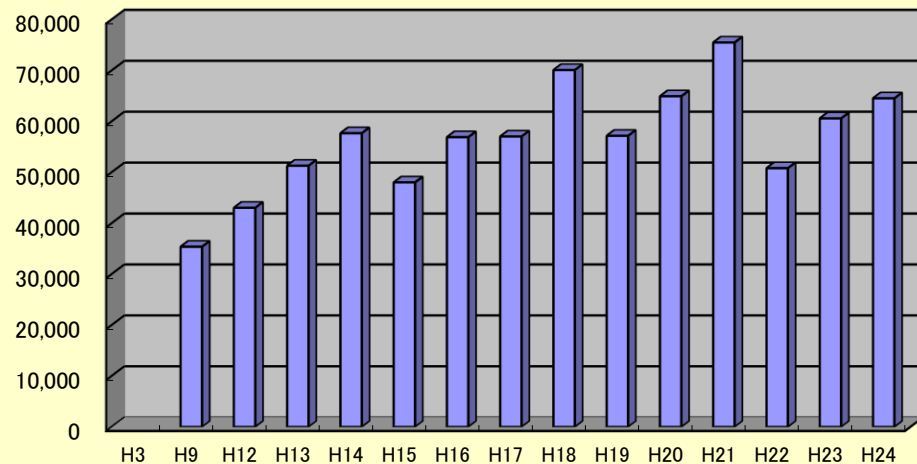
観光立道の北海道では様々や天然資源を活用した観光活動が実施されている。しかし、必ずしも天然の観光資源に恵まれている地域ばかりではなく、そのような地域においては、気象条件や、温泉などの天然資源、または既存のハコモノや、関連人材などを活用し、「スポーツ合宿地」として地域外から人やお金を呼び込み、それを地元経済に還元しようとする試みが展開されている。

# 研究結果：実施件数と参加人数

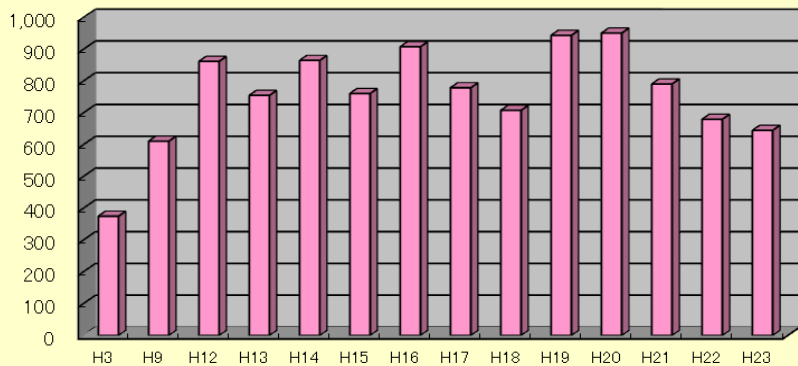
実施件数(道内団体)



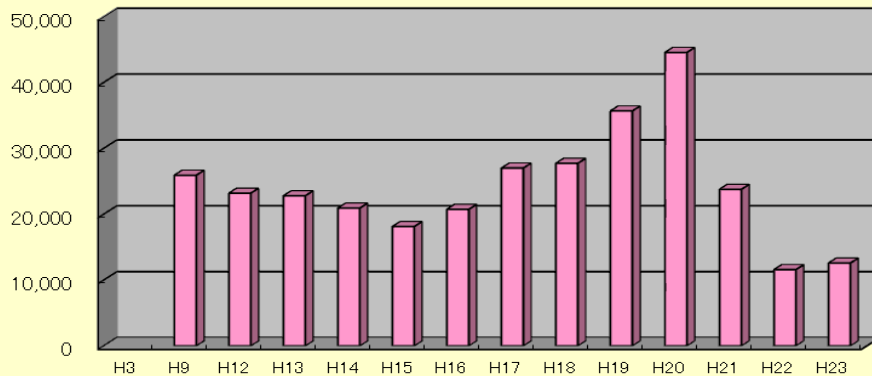
参加実人数(道内団体)



実施件数(道外)

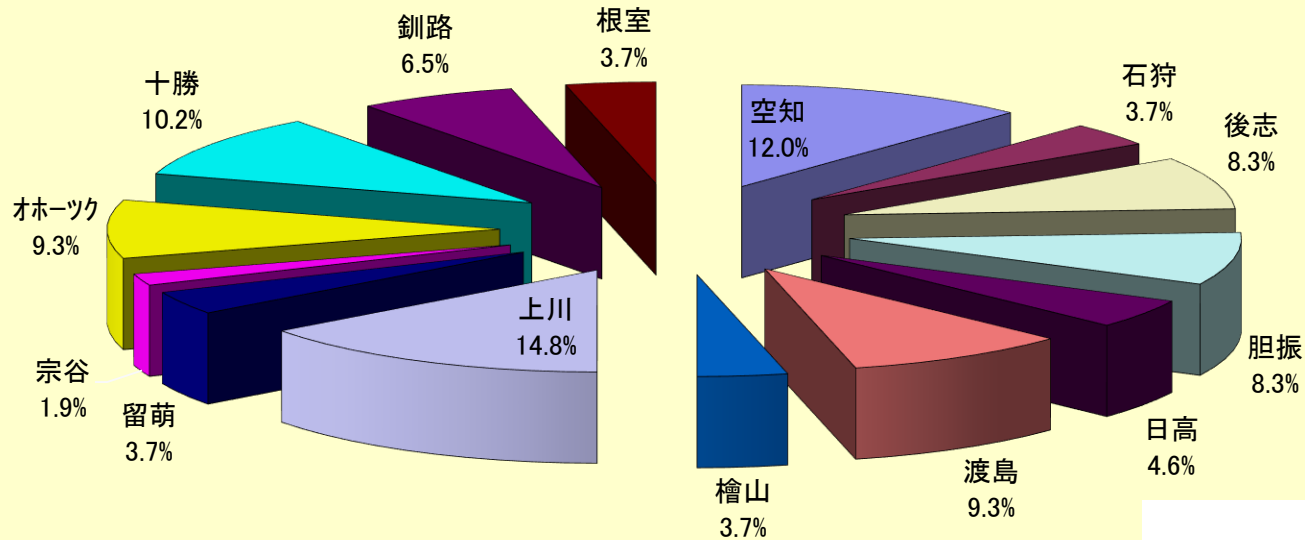


参加実人数(道外)



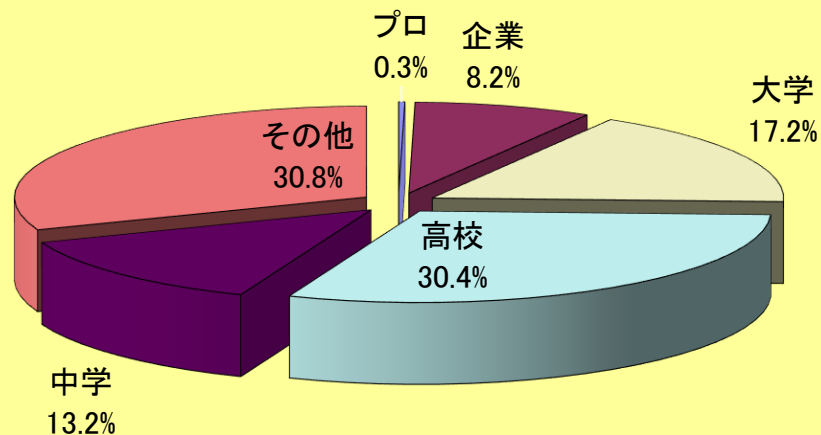
# 研究結果：管内別実施率

実施市町村割合(管内別)

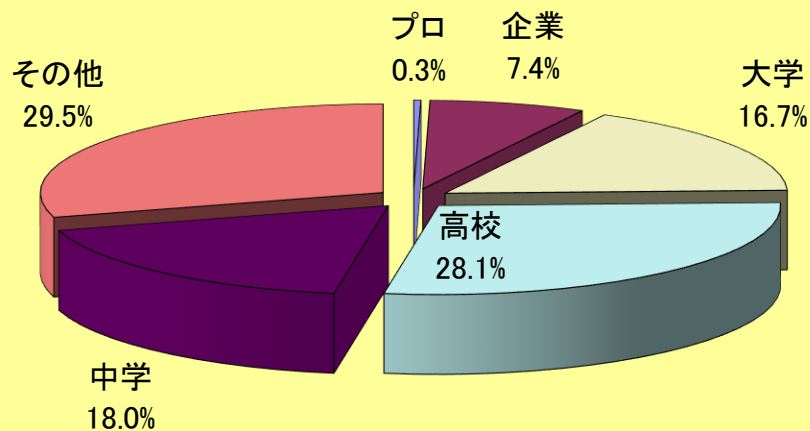


# 研究結果：実施団体

団体別 実施件数



団体別 参加実人数



# 研究結果：実施種目と人数

道内団体(人)		
1	サッカー	23,852
2	バレーボール	18,998
3	野球	18,820
4	陸上	18,175
5	バスケットボール	13,800
6	スキー(アルペン)	12,759
7	バドミントン	8,553
8	剣道	6,879
9	ミニバスケットボール	5,498
10	アイスホッケー	4,701

道外団体(人)		
1	ラグビー	26,562
2	陸上	20,858
3	スキー(アルペン)	18,789
4	アイスホッケー	13,227
5	バスケットボール	5,464
6	スキー(クロカン)	4,711
7	野球	3,814
8	サッカー	1,919
9	スキー(ジャンプ)	1,311
10	駅伝	1,134



# 北見市の事例

- ◆ 北見市は女満別空港から車で40分の距離にあり、オホーツク圏の産業と経済・文化の中核都市である。人口は約12万人
- ◆ スポーツ合宿は、昭和60年から誘致活動を始め、現在ではラグビー・陸上・スキー・カーリングなどが訪れている。
- ◆ 近年、「合宿の里 きたみ」として定着。

# 北見市の事例



北見市HPより転用

# 北見市の事例

## ◆ スポーツ合宿受け入れ実績

- 2017年15種目 178チーム 4471名
- 2018年14種目 197チーム 4125名
- 2019年14種目 165チーム 3520名

※ 飽和状態が顕著に…。  
最近では隣の網走市との協同も目立つ。


# 第二部

## スポーツ合宿実施自治体の内情



# 調査について

目的：地域振興策としての「スポーツ合宿地」の現状とこれからの可能性を、道内の該当市町村に着目して明らかにする。



内容：道内全179市町村に質問紙を郵送し、119の自治体から回答が得られ、その中で現在スポーツ合宿を行っている自治体は77であった。

# 質問：合宿は地域振興の有効ツールになり得るか？

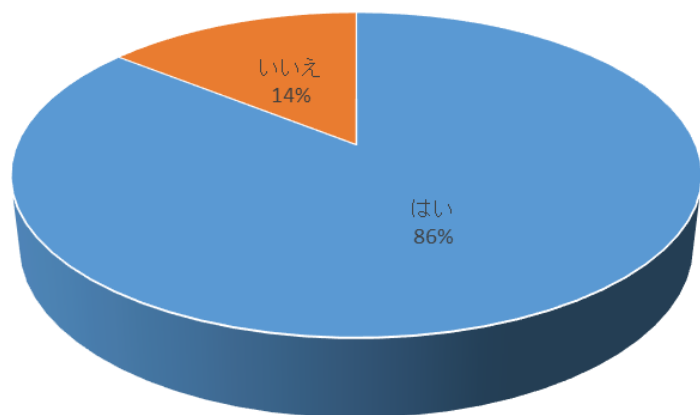


図1, 合宿は地域振興の有効ツールか？

ほとんどの実施自治体が「地域振興の有効ツール」と回答.

# 質問：合宿のターゲットは？

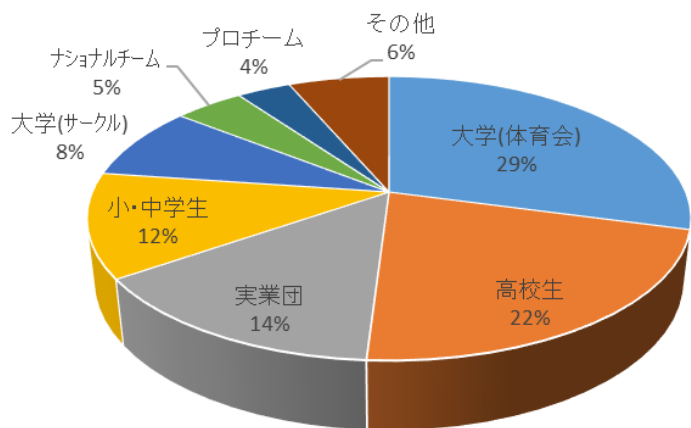


図2. 合宿のターゲット

トップチームは少数であり、比較的、近隣からの参加者を想定している。

# 質問：合宿のPR方法は？

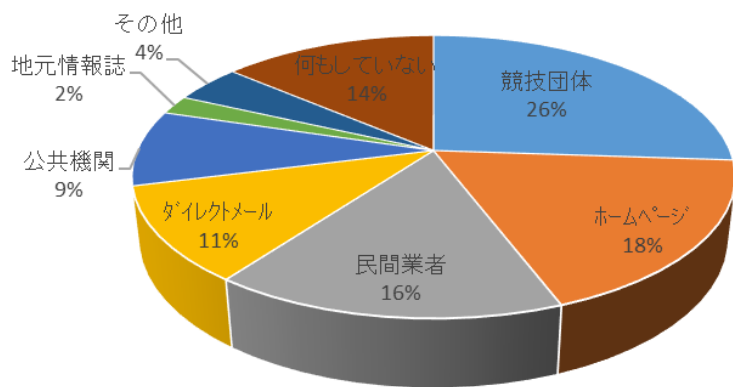


図3, 合宿PR方法

「各競技団体への呼び掛け」が最も多かったが、「何もしていない」との回答も14%。これは、「リピート率が高いために、新規でPRする必要がない」のか？  
「やりたくてもできない」や「やり方がわからない」のか？



# 質問：合宿誘致の目的は？

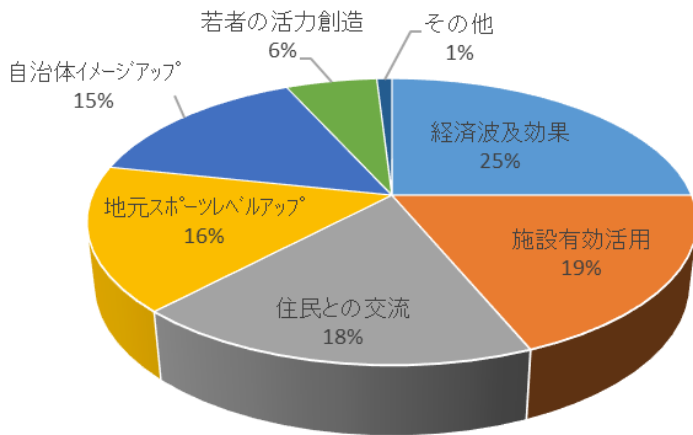


図4, 合宿誘致目的

「経済波及効果」が最も高い値となった。「地域振興策」の大きな柱として「スポーツ合宿を誘致し、経済波及効果を生み出す」という道内自治体の思惑が垣間見られる結果といえる。

# 質問：経済波及効果の算出は？

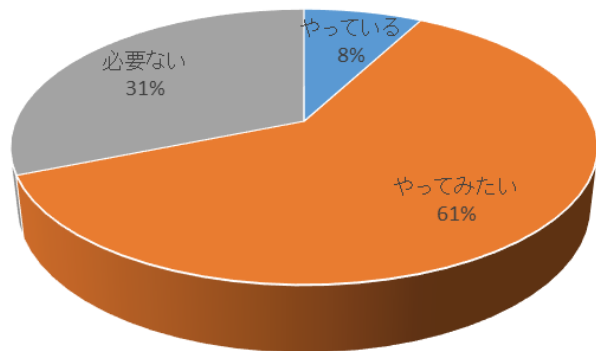


図5, 経済波及効果の算出

多くの自治体でスポーツ合宿の「経済波及効果」への期待があることが浮き彫りとなったが、それを実証するための手段やツールはまだ未整備でありことも明らかとなった。

# 北見市の経済波及効果の検証結果

①	宿泊費	¥165,347,460
②	消費額	¥37,852,850
③	航空券	¥69,485,000
④	スポーツ合宿実行委員会補助金	¥29,499,784
⑤	東陵公園運営管理費 →芝生グラウンド等維持管理費	¥4,571,083
⑥	モイワスポーツワールド運営管理費	¥54,856,646
⑦	常呂川水系緑地スポーツ施設運営管理費 →芝生グラウンド等維持管理強化費	¥38,476,496
⑧	体育施設運営管理費	¥3,428,393
⑨	体育施設等整備費	¥1,611,655
	計	¥405,129,367

収入

支出  
経費

# 第三部


## スポーツ合宿に参加する側の選定要因

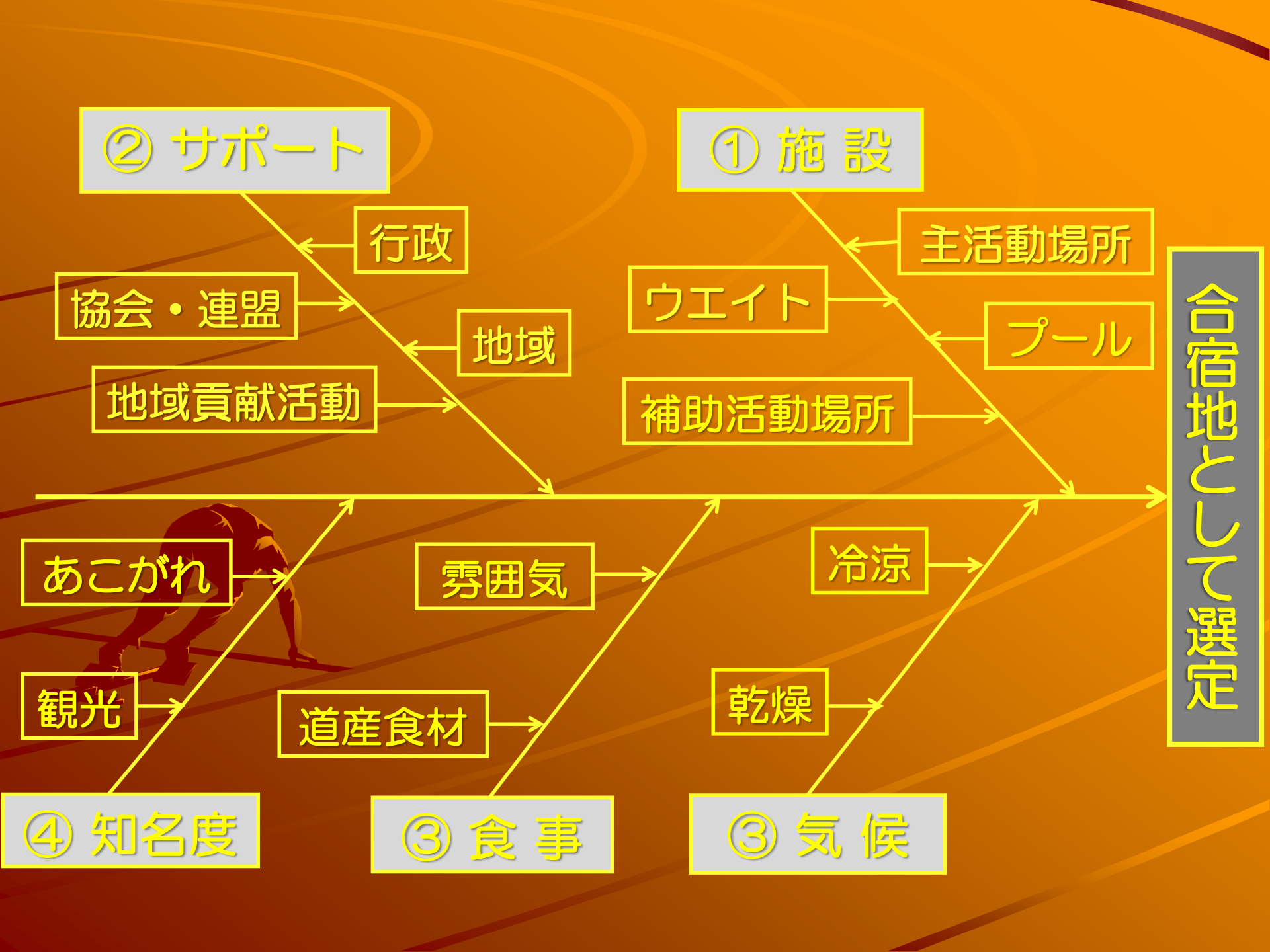


# 調査について

目的：道外に本拠地を置き，道内で合宿行っているトップスポーツチームにおける合宿地の選定要因を明らかにすること

内容：トップチームにおいて，合宿地選定に関与するスタッフにインタビュー調査を実施し，合宿地の選定要因を明らかにした。

A silhouette of a runner in a starting crouch on a track, positioned to the left of the '内容' text block.



# 問題の背景

道内で実施されているスポーツ合宿は年間2千件程である。ただし、その中でいわゆるトップチームが行う合宿は10%弱となっており、それ以外は、高校や大学、そして中学校が大勢を占める状況である。

この点を踏まえると、本研究の結果は、あくまでもトップチームに特化したためであり、学生や生徒たちを対象とした合宿には必ずしも合致する要因とは限らない。この点は本研究の限界でもあり、今後の課題としたい。



笹川スポーツ財団

SASAKAWA SPORTS FOUNDATION



本研究は笹川スポーツ財団からの研究助成を受け、  
実施しているものです。